

おむすび

たかしま

26号

2015年1月発行



特集 地域を元気にする若者の力をご紹介します!

平成26年度 協働提案事業
支え合いの社会づくりのための移動販売事業
【平成24年度、25年度の継続事業】

社会福祉法人 虹の会 ぎょうれつ本舗

連絡先 高島市新旭町北畑45 TEL/FAX : 0740-25-5315
URL : <http://shiganijinokai.net/>

INDEX

- 特集 地域を元気にする若者の力をご紹介します!
- たかしまの元気! 企業 ~ 今津サンブリッジホテル ~ 地域の人々の交流が生まれるホテル
- 新年のあいさつ
- たかしま・未来・円卓会議中間報告!
- いろいろやっています! (in) たかしま 市内でがんばっているNPOや市民活動団体を紹介
- インフォメーション

高島市協働提案事業として3年間取り組まれた「ぎょうれつ本舗」は、買い物に困難な過疎地域への支援と障がいのある方が地域社会で働く仕組みとして移動販売を行っています。

今年度は市内の養護老人ホームやデイサービス、地域の福祉サロンなどからも販売に来てほしいと声がかかるようになりました。街中でも高齢者が気軽に買い物に出られない状況が出てきており、福祉推進員さんや高島市社会福祉協議会などと連携しながらニーズのあるところへ販売を広げたいと考えています。

販売する障がい者にとって、接客をとおして地域の方に社会性を育ててもらいながら、社会の役に立っているという喜びと励みを得る大切な場となっています。

今後は、販売先から農産物を仕入れ、お惣菜やカフェのメニューに使うなど過疎地域と双方向で支え合う仕組みを、高島市観光物産プラザにオープンした「MIZU cafe cocco」で展開していきたいと準備しています。

INFORMATION

第5回 たかしま・未来・円卓会議

今年度は、参加者とともに選んだテーマを切り口に、高島市の地域資源を活用して、地域課題の解決につながる【小さなビジネスの種】を見出します!

◆第5回 「事業を具体化させよう!」

日時	2015年1月31日(土) 13:30~17:00
内容	第2回テーマ「自然」、第3回テーマ「観光」、第4回テーマ「高齢者の生きがい人材活用」で見出した「小さなビジネス」のアイデアを具体化するために話し合います。
場所	今津東コミュニティセンター ホール
講師	中川芳江 氏 (Office SPES 代表)
定員	30名
参加費	無料
対象者	高島での起業に関心のある方、小さな仕事づくりに関心のある方など

申込・問い合わせ先 たかしま市民協働交流センター
詳細は、[たかしま市民協働交流センターブログ](http://shiganijinokai.net/)に掲載しています。

たかしま・未来・円卓会議 視察研修 地域の資源を活かし、地域の元気と魅力を次世代へつなぐまちに学ぶ

「たかしま・未来・円卓会議」は、高島の資源を活かした小さな仕事づくりを見つけようと取り組んでいます。先進事例の視察に、三重県多気郡多気町へ地域資源を活かし、地域の仕事につながる取り組みを見に行きます。ぜひ、ご参加ください。

立梅用水小水力発電プロジェクト
江戸時代に整備された立梅用水を活用して、小水力発電プロジェクトが実施されています。地域住民がともに考え、地域資源を活かし地域の人々が活用し、未来へつなぐまちづくりに取り組まれています。

農家レストランせいの里まめや
地域の魅力である農村文化を、次の世代に伝えたいと地域の人たちが農家レストランを始めました。「旬の料理」「地元産」「手作り」にこだわった心と体にやさしい農村料理と体験教室、加工品の販売などを通じて、農業の活性化と農村の魅力を広く伝える取り組みがされています

日時	2015年2月7日(土) 8:00出発18:30到着予定
集合	今津東コミュニティセンター
訪問先	水土里ネット立梅用水型小水力発電プロジェクト 農家レストランせいの里まめや
参加費	1,000円(資料代)(昼食は、農村料理バイキング1,200円が別途必要)
定員	20名(先着順)

申込方法 1月31日(土)までに、
たかしま市民協働交流センターへお申込みください。

編集後記
新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。楽しいところに人は集まる、っていうのはその通りではないかと思ってます。仕事を楽しみ、家族との時間を楽しみ、独りの時間を楽しむ人が、高島市にいっぱいいれば、高島に訪れたい、高島に住みたいという人が集まるのではないかと、そんな妄想を膨らませる今日この頃です。今を一生懸命楽しみたいと思います。(H)

今津東コミュニティセンターからのお知らせ

今津東コミセンでは、1Fのロビー・ホールを地域で活動する市民及び団体の皆さまの活動発表の場として、無償で場所を提供しております。

サークルの作品展やロビーの活用等、ご希望の方はご相談ください。

- 1月から3月に開催の展示会
- 1月 5日~24日 松居直和写真展~里山の小学校の記録~
 - 2月 3日~11日 高島高校2年書道作品展
 - 2月11日~19日 高島高校書道・美術・写真展
 - 2月20日~27日 愛瓢会とあけぼの墨絵クラブ合同展
 - 3月 1日~10日 押し花作品展
 - 3月14日~15日 春らん展
 - 3月17日~31日 高島市人権標語パネル展

2月より、平成27年度前期に開催の展示を募集いたします。ご希望の方は、今津東コミセン事務局まで詳細をお尋ねください。

今津東コミュニティセンター
TEL 0740-22-3222
FAX 0740-20-5757

高島市のご当地スマホアプリが出来ました!

湖西線の運行状況や防災無線情報、観光・イベント、行政の情報など、暮らしに便利な様々な高島市情報に簡単にアクセス出来るスマホアプリ「びわ湖源流の郷 情報ナビ」が出来ました。

Androidスマホ版は Google Playストアから、iPhone版は Apple Appストアから、「びわ湖源流の郷」で検索してダウンロード出来ます。あなたのスマホに、いつも高島市情報を!ぜひ、お使いください。



Android 版



iPhone 版

連絡先
NPO法人eネットびわ湖高島
TEL 050-3635-9231

◆ このページに関するご応募・お問合せ
たかしま市民協働交流センターまで、お気軽にお問合せください。

発行/たかしま市民協働交流センター
〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1 (今津東コミュニティセンター内)
TEL/ 0740-20-5758 FAX/ 0740-20-5757
MAIL/ webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
<http://tkkc.takashima-shiga.jp/> **facebook**
<http://tkkc.shiga-saku.net/> **twitter**
業務時間/ 祝日を除く月~金曜日 9時~17時

特集

地域を元気にする若者の力をご紹介！

高島市で地域を元気にする活動をしている若者がいます。地元で育った若者、市外から高島へ来た若者、それぞれに地域への思いを力に、地域の魅力を高める活動を展開しています。地域の活動に参加しようかなと思っっている方も、ぜひ関心のある活動へ参加してはいかがでしょうか。

スポーツで若者の

雇用場を広げたい

○認定NPO法人 TSSC
お問い合わせ先
高島市今津町名小路一丁目六-五
TEL 0740(22)60990

野球やサッカーなどのアスリートを目指す子どもたちのスポーツ塾から、〇歳から一〇〇歳までスポーツを楽しむ地域づくりをめざした生涯スポーツの教室まで、多様なメニューを十九歳から二十五歳の指導員が支えています。スポーツを専門に学んだ指導者による「質の高い指導」「個人の特性をしっかりと捉えた指導」「さらなる技術アップを求める子どもへの対応」が特徴です。高齢者の健康づくりのニーズが高まる中、三十〜四十代の働く世代のプログラム開発にも取り組むたいと考えています。



仲間とともに、挑戦しながら、自らつくる楽しさを知る場

高島市青年協議会

お問い合わせ先
高島市今津町口置前100
TEL 060(8378)8005(桂田)
E-mail: re_takeshi@yahoo.co.jp

平成十七年、市内四つの青年団の活動をつなぎ、サポートする「高島市青年協議会」が発足しました。各青年団には特徴的な活動があり、地域性にとらわれず関心のある活動へ参加することができ



きます。

今津町青年団は夏休みの子どもたちの思い出作りに入れています。新旭チャレンジクラブは盆踊りを中心にアットホームな夏祭りを開催。朽木青年団はキャンドルイイベントでまちに暖かな明かりを灯しています。マキノ町青年団は出会いや人が集まるイベントを企画しています。

「青年団活動は、仕事だけでは表現できない自分を見つけ、新しい仲間を作ることができる場です。一人ではできないことを仲間と実現し、活動をおとして一生つきあえる友ができます。ボランティア活動をしていると思われがちですが、自分たちのやりたいこと、おもしろいと思うことを実現するのが基本です」と会長 桂田孝太さん。高島の若者のみなさん、青年団に参加してみてください。

地域が「好き」が最も大切な気持ち

高島市消防団

お問い合わせ先
高島市消防本部消防総務課消防団係
TEL 0740(22)5401

地域で火事や災害など非常事態が起こったとき、市民の手で地域を守るために日ごろから訓練を積んでいるのが消防団です。市内では約五〇〇名が活動しています。



火災時は消防本部とともに消火活動を行います。台風などの災害時には河川状況の警戒活動や土のう積み、避難誘導などに対応。平常時は火災予防などの広報活動もしています。昨年春、今津五班に入団した足立善希さんは二十六歳。

「数年ぶりに地元に戻り、地域の役に立つことをしたいと入団しました。若者が地域を何とかしなければと思っています」と言います。同時期に入団した早川浩徳さんは四十歳。「大学で高島を離れ、久しぶりに地元に戻った時に、自治会の方から声がかかり入団しました。入団して人のつながりが増えました。訓練などを重ねることで地域への思いが育つのを感じています」と話します。

消防団は非常勤の地方公務員ですが、ボランティア精神と地域を守る使命感に支えられた組織です。今津六班の班長 井上佳郎さんは「消防団員は、自分の住んでいる地域を好きになってほしい。自分たちの地域を自分たちで守りたいという気持ちが大切です」と話してくれました。関心のある方、ぜひお問い合わせください。

農業と漁業と食がつながり、高島の魅力を発信

湖地考知プロジェクト

お問い合わせ先
高島ワニカフェ
TEL 0740(20)20096
定休日 月曜(祝日の場合、翌火曜日)
火・水・木曜日 11:30~17:30
金・土・日曜日 11:30~21:00

マキノ町の漁師 中村清作さん、安曇川町の農家 梅村泰彦さん、高島町でレストランを営む 岡野将広さんなどが中心となって、高島の水田、びわ湖、湖魚の魅力子どもたちに伝えるプロジェクトをしようとして昨年夏に動き出し、十月二十六日にイベントを開催しました。参加の親子やサポー



トのボランティア含めて約九十名が今津町の水田で水路の生き物調査をして二十種類以上を見つけ、琵琶湖で地引網を体験してブラックバスなど約五kgを水揚げ、獲れた魚を料理して食べるという盛りだくさんな一日を楽しみました。プロジェクトのメンバーは二十歳から四十歳。「子どもたちが琵琶湖の魚を食べる経験が少ないのでは」「地域の魅力を発信したい」「水田と琵琶湖のつながりを感じてほしい」それぞれの思いを語り合いながら、企画をつくり、市内外の協力者とともにこのプロジェクトを作りました。終了後、参加した中学生が「漁師になりたい」と聞きに来て、中村さんは「やってよかった」と実感したそうです。今後は、子どもたちの山の猟師体験を計画中だそうです。

他にも高島を元気にする若者の活動があると思います。

ぜひ、情報をお寄せください。取材をさせていただいた若者たち、意外に、お互いの活動は知らなかったようです。

つながっていくきっかけにいただけると嬉しいですね。

新年のあいさつ



たかしま市民協働交流センター協議会
運営委員長 古谷芳實

新年あけましておめでとうございます。

旧年中はたかしま市民協働交流センター事業にご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、市民協働交流センターは市民活動にかかわる多くの市民や団体が相互にネットワークをつくり、市民とともに地域課題に取り組み、地域文化およびまちづくりを育むために、今津東コミュニティセンター内に高島市が設置し、運営委員会が事業を受託して実施しております。

11月に開催しました「たかしま市民活動フェスタ2014 あなたが主役～子どもたちの未来のために」では、約40団体が互いにつながり、来場された約500名の市民と交流し、市民活動について伝える機会になりました。

「たかしま・未来・円卓会議」も地域のこれからを市民が話し合う場として取り組んでいます。

平成27年も市民協働交流センター事業の役割を着実に果たしたいと心新たにしております。皆様のご支援・ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成26年度 市民による、市民のためのまちづくり

たかしま・未来・円卓会議中間報告！

今年度の円卓会議では「小さな仕事づくり」をベースに、「自然」「観光」「高齢者・生きがい人材活用」という3つのテーマを切り口として、薪や鹿肉を活用したビジネスや農家民宿、自転車のための道の駅、子どもの体験ツアーなど【高島の地域資源を活かした、小さなビジネスの種】を見出してきました。また、それらの事業に取り組みそうなキーパーソンや地域を絞り込むことで、より具体的な地域課題の解決につなげていきたいと思っています。

次回の円卓会議では、これまでに出来た「小さなビジネスの種」を事業として具体化させるための話をします。興味のある方は、ぜひ、たかしま市民協働交流センターまでお問合せください。



円卓会議の様子

◆第5回1月31日(土) 13:30～開催！ (詳細につきましては、裏表紙をご参照ください。)

「事業を具体化させよう！」

たかしま・未来・円卓会議とは

高島にある地域の課題や「何とかしたい！」地域の困り事などを、市民、市民活動団体、企業、行政、学校、金融機関など、地域を支えるいろいろな人や組織がともに考え、力を出し合って連携し、協働によって解決策を見出していく場が「たかしま・未来・円卓会議」です。

地域を支える協働のパートナー、高島の地域を盛り上げる企業をご紹介します。

たかしまの元気！企業



地域の人々の交流が生まれるホテル

—今津サンブリッジホテル— 料飲課 係長 澤田 知枝さん

高島でたくさんの方が交流できる場をめざして開業され、2014年秋に20周年を迎えました。「人と環境に優しいホテルへ一歩ずつ」をキャッチフレーズに、社員全員が地域の人々との交流や環境活動を楽しみながら継続しておられる取り組みについて 料飲課 係長 澤田知枝さんにお聞きしました。

■ 地域貢献が社員のスキルアップとチームワークに

◆ 環境への取り組みをお聞かせください。

2009年5月に温室効果ガスの大幅な削減を目指し、滋賀県初となる*「国内クレジット制度排出削減事業」の承認を受けました。削減による売却益から地域貢献として保育園児のご招待や特別養護老人ホーム、養護学校などの訪問をしています。お料理などの提供だけでなく、保育園では練習を重ねて紙芝居の披露を、養護学校ではヨシ笛について学び、ヨシ笛づくり体験とヨシ笛コンサートをしました。準備や練習は仕事の後などにするので大変ですが、接客のスキルアップにもつながり、社員にとっても良い効果を感じています。

ペットボトルキャップを回収し、途上国の子どもたちのワクチン提供につなぐ「エコキャップ運動」は2011年から始め、現在までに80万個を回収しました。ホテル内だけでなく、取引先企業や市内の小中学校からのご協力いただき、社員が協力して分別作業を行い、毎月数万個発送しています。学校からは回収した後の作業を知りたいという声があり、一緒に作業できるような機会を持ちたいと思っています。地域の方々にも参加していただくことで、活動の意義を広めていきたいと考えています。

■ 高島で育った人が高島をもっと好きになってほしい

◆ 「地産地消」として地元の食材をたくさん使っておられるそうですね。

高島の良いものを市内外の方に知っていただきたいという思いから、市内の米、野菜、果物、酒、醤油、酢、湖魚等をランチバイキングに使っています。生産者を訪ね、生産のこだわりやご苦労などを聞き、そこで学んだことをお料理に取り入れるようにしています。

高島の歴史文化や自然を訪ねる「湖彩倶楽部」は、ホテルに気軽に足を運んでいただきたいという思いからスタッフが企画するサークル活動です。私は遺跡や社寺仏閣を訪ねる「高島歴史街道」を企画して、お客様とともに訪問しています。お酒好きな社員は「酒楽会」を企画し、市内の5酒造の蔵を訪ねる活動をしています。楽しみながら高島を知り、高島の魅力を感じていただく活動です。高島は自慢できるものがいっぱい、もっと多くの人にお伝えして高島に足を運んでいただくことで高島を好きになっていただきたいと思っています。

環境への取り組みも「湖彩倶楽部」も楽しんで取り組まれている様子が新鮮でした。澤田さんは長浜から通勤の方ですが、高島が好きで、高島の人にもっと地域の魅力に触れてほしいと語っておられました。

*国内クレジット制度排出削減事業とは、中小企業等が大企業等と共同して自らの温室効果ガス排出量を削減し、その削減量をクレジット化して売却する排出量取引のしくみです。



IMAZU SUN BRIDGE HOTEL

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1689-2
TEL:0740-22-6666 FAX:0740-22-6465
E-mail: sun-info@sunbridge-hotel.co.jp
ホームページ: http://www.sunbridge-hotel.co.jp/

いろいろやっています！ in たかしま

ここでは、市内のNPO、特徴的な活動のまちづくり団体や自治会が、どのようなきっかけで地域の課題に気付き活動を始めたのか、また活動の輪を広げていったのか、など、活動を展開する上での喜びや課題、これからのビジョンなどを取材して紹介します。

森林の価値や山村地域の文化や暮らしを学び、継承したい

巨木と水源の郷をまもる会



安曇川の源流域、朽木で活動を続ける【巨木と水源の郷をまもる会】(以下、まもる会)は、平成22年10月に設立されました。設立メンバーは、樹齢数百年を超えるトチノキの巨木が伐採されていることを知り、山の荒廃や森と人との関わり、その文化までもが消失するかもしれないと危機感を募らせた、代表の小松明美さんはおっしゃいます。

現在、まもる会の目的を理解してくれる方が増え、会員は90名。自然保護活動だけでなく、その森林の価値や機能を向上させ、森林と共生する暮らしや文化を学びながら、次世代に継承することを目的に活動しています。

主な活動は、年間を通じて行うトチノキ観察会や巨木調査、春の植樹、秋の枅の木祭のほか、森林整備や研修会、学習会なども精力的におこなっています。

継続する一方で、市内外にも認知される活動に

まもる会では、朽木針畑地域だけでなく、もっと広くこの活動を理解してもらいたいと思いつ、地道な活動を継続。「トチノキに関心を持つ人が市内にも増えてきた」「時間を重ねることで、地元の人との信頼関係が築けてきたことがうれしい」と話す小松さん。現在の課題は、獣害のためトチの苗木を若木に育てることが難しいという点と、会費だけでは組織の継続に不安が残るという点だそう。

森林と共生する人々の暮らしと文化を守るこの活動は、琵琶湖の水を守る活動でもあります。

「今後もメンバーで知恵を出し合いながら活動を続けることで、会の目的を理解してくれる人が少しでも増え、琵琶湖のことや自分たちの暮らしの原点について考える人が増えて欲しい」とのこと。

取材中、小松さんの言葉の端々から感じる琵琶湖と山村地域への感謝の姿勢が、多くの人を動かしているのだそうと思えました。



巨木と水源の郷をまもる会

(高島市朽木能家3008)

- 会員数 / 90名
- 設立 / 平成22年(2010年)
- 代表 / 小松 明美

連絡先

電話 090-8196-6765
FAX 077-575-4252

中江藤樹先生 思想を広く普及させたい

NPO法人高島藤樹会



【NPO法人高島藤樹会】(以下、藤樹会)は、高島市の偉人で近江聖人と称えられた中江藤樹先生(以下、藤樹先生)の思想の現代的意義を研究するとともに、広く市内外に普及・啓発することを目的に平成18年に設立し、平成24年8月に法人化されました。

会員は一般190名、法人10社。主な活動として、藤樹先生関連のフォーラムや研修会の開催、藤樹先生顕彰のための事業や研究、普及啓発のための教材開発、会報誌の発行などを行っています。また、それぞれの事業毎に委員会を設置し、年間を通じて活動し、事業を推進しているそうです。

会員が「知行合一」の教えを実践

今回、お話を伺ったのは、藤樹会副会長の北川暢子さん。平成20年に開催された「藤樹先生

生誕400年祭※」終了後、どうやって継続的に藤樹先生の教えを広めるかが、大きな課題だったようです。今後、どのような事業が必要か、何ができるのかを話し合い、現在の各事業に落ち着いたとのこと。元小学校教師であった北川さんは、藤樹先生の教えを伝えることの難しさを経験し、もっと簡単に伝えられないかと思っていました。そこで、幼児や児童向けの教材委員会に所属し、藤樹先生の紙芝居(15巻)やカルタを作成し、子どもだけでなく大人にも学びやすい教材づくりを通じて、藤樹先生の心意気を学んでもらえる工夫をしています。



「若い人にも藤樹会に入ってもらえるよう呼びかけ、刷新されていくしくみ」や「藤樹先生の学徳や教えが広がっていく手立て」を仲間と考え工夫している姿に、藤樹先生の「知行合一」の教えが生かされていると感じる取材でした。

※ 藤樹先生 生誕400年祭

藤樹先生の生誕400年を迎えた平成20年、藤樹先生の残された知的財産を次世代に引き継ぐとともに、郷土の偉人を生かしたまちづくりを目指すことを目的に組織された実行委員会が、半年間にわたり、さまざまな記念行事を開催しました。

NPO法人高島藤樹会

(高島市安曇川町小川225-1 良知館内)

- 会員数 / 一般190名 法人10社
- 設立 / 平成18年(2006年)
- 代表 / 川越 清司

連絡先

電話・FAX 0740-32-4156

椋川地域のくらしを守りつづけて

結いの里 椋川

今津町椋川。標高約300mの山里集落で、築140年になる高島市内最大級の茅葺き古民家を取り壊されるかも知れないという話から、平成20年3月に【結いの里 椋川】が設立されました。その後、古民家は高島市に寄贈され、改修・整備が進み、平成21年春、都市農村交流拠点施設「おっさん椋川交流館」(以下、交流館)として生まれ変わりました。

交流館には囲炉裏やおくどさんも再現され、わら細工などの体験をすることもできるとのこと。「おっさん」は「ありがとう」を意味する椋川の方言だそうです。

今回、代表の井上四郎太夫さんと事務局の是永宙さんにお話を伺いました。



みんなで考える将来の村づくり

メンバーは地域住民と地域外の人を合わせて約50名。過疎化、高齢化の進む椋川の元氣と都市と農村の交流を目的に活動をしています。

雪かきや水路掃除のお手伝い、オーナー制のお米づくり、星空観察会のほか、11月には毎年恒例となっている椋川地域食べ歩き、つくり収穫祭「おっさん！椋川」の開催など、他団体や学生などと連携して、人のつながりを大事にしながら、将来の村づくりを一緒に考えています。

交流館ができる以前から続いている収穫祭「おっさん！椋川」も平成26年秋には11回目を数えました。年々この地を訪れる人は増えており、応援の輪を広げています。

「学生など、もっと外部の人たちに関わってもらって、色んなアイデアを出すような話し合いの場をもちたい」と語る代表の井上さんの言葉から、この地域を守りたいという責任感と熱い想いが伝わってきました。



結いの里 椋川

(高島市今津町椋川286)

- 会員数 / 50名
- 設立 / 平成20年(2008年)
- 代表 / 井上 四郎太夫

連絡先

電話・FAX 0740-20-1027
携帯 090-3864-4077